令和４年度　中央区立泰明幼稚園　　外部評価報告書

外部評価委員　：藤井　千恵子　　和地 泰志　　山本　佐江子
第三者評価委員：株本　光子

評価時期　　令和５年３月

１　重点目標の評価

○重点目標１　「豊かな情操を育てる教育の推進」

この項目は、元気に遊ぶ力、他とかかわる力、豊かな言語感覚、考える力の育成を目指した取組である。「子どもは元気にあいさつしているか。」「子どもたちは、相手の気持ちを感じたり、話を聴こうとしたりしているか。」の質問に、保護者、教職員の全員が「達成した」と回答した。このために、教師は、一年を通して相手の気持ちを感じたり、話を聴こうとしたりするなど、園児に求める姿を教職員が率先して取り組んだ。保護者の自由記述にも「子供たちがこうしてみたいという気持ちを大切に保育していただいていることを嬉しく思います。」という内容の記述が複数見られた。教師が考えを共有した取組によって子供は育っていくのである。

○重点目標２「幼児期にあった興味・関心の向けられる教育の推進」

この項目は、幼児の知的環境の整備、地域の環境とのかかわりを工夫し、幼児期に応じた興味・関心・関心が育つことをねらった取組である。

質問「銀座街探検、日比谷公園散歩などで地域の方と関わったりすることを楽しみにしているか」に、保護者、教職員全員が、「達成した」と回答している。

昨年度の評価を活かし、今年度、日比谷公園散歩や銀座町探検では、幼児に何を経験させたいのか内容を検討して実施したことで、体力向上の他に、継続的に自然や季節の変化を感じられるようになった」と自己評価をしている。何のために、何を経験させるかを明確にして活動に取り組む重要性を発見したことも今年度の大きな収穫である。

○重点目標３「多様な運動感覚の養成」

多様な運動感覚を養成するために、運動をしたくなる環境設定、遊びを創意工夫する意図的な働きかけをした取組である。「入園、進級当初と比べて体力や運動能力が向上するよう、計画的に運動遊びを取り入れたか」の質問に、保護者、教職員のうち２名が「改善を要する」と回答した。

園は、改修工事中でも小公園、園庭、体育館などの利用、遊び時間の確保の取組を行ってきた。さらに、少人数の利点を生かして、自分で目的を見つけ、繰り返し挑戦する時間の確保をし、できる喜びを感じるようにした。

次年度に教育活動が発展的につながるために、体力の向上は、遊具の工夫、環境設定、遊び方の工夫で可能になるという本園の仮説は効果があったかを検証する。また、年度当初に体力の向上を何を基準に捉えるかを明確にすることも大切にする。幼児教育の専門家として本園の園児の体力向上には、何が重要かを把握・分析し、計画することも今後の課題となる。

○「家庭や地域との連携」

保護者から、幼児が成長していく喜びに対する感謝の言葉が多く見られている。日頃から幼児の変化をホームページ、お手紙、降園時の説明、動画を見せながら説明するなどあらゆる機会を通して保護者に説明をしているからである。日頃の努力に敬意を表すると同時に、次年度の取組を期待する。

２　今後の改善に向けた意見

○　質問紙について：「中央区立学校の学校評価ガイドライン」を参照し、「重点目標」「評価項目」「評価指標」の関係を理解し、園にも保護者にも理解できて取組みやすい計画を立てるようにする。